



水辺のひろば

No.17
2013年 4月 1日発行



「へえ、なるほど。子供たちってよく周りのことを見ているのね。」

小学生たちから学ぶ 私たちの身近な環境

加治川ネット21が主催する平成24年度の「小学生による環境学習パネル展」が11月、イオンモール新発田店で開催されました。

子供たちにもっと身近な環境に目を向けてほしいとの思いから、当会では小学校の環境学習支援にも力を入れていますが、その一つがこのパネル展です。子供たちの学習成果を、より多くの人に見てもらい、感じてもらうことがねらいです。

平成19年から始めたパネル展も今回が6回目。新発田市、聖籠町の小学校22校から出展がありました。

ひとくちに「環境」といっても、切り口はさまざま。ごみに始まり、地域の川や池の水質、生き物調査、給食の食べ残しのリサイクル、お茶や米の栽培を通しての気付き、地域の自然を守るためにできること、野鳥観察など、それぞれ時間をかけて調べた成果が、大きな紙にびっしりと表現されていました。

パネル展は今年も開催予定です。今回見逃した方、ぜひ次の機会に小学生の「力」を感じてください。

宝物みくらつけた

新発田の 水道水はおいしい

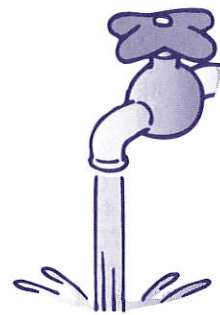
「新発田の水道水はおいしい」とよく耳にします。小さい頃より新発田に住んでいる私たちにはこんなものかという感じがしますが、東京や大阪の水道水を飲むと、新発田の水道水のおいしさを実感できます。

新発田市の水道水は大槻にある第一頭首工から加治川の水を取水し、江口浄水場で浄化するとともに、深井戸を通して加治川の伏流水をたくさん使っています。このため厚生労働省の「おいしい水研究会」が示した「おいしい水の要件」である「くせ、渋味、苦味」がなく、地下水のため、夏でも水温が

低いことも、よりおいしく感じさせる要因だと思われまます。

水道水はおいしさとともに、安全性も絶対条件です。新発田の水道水は厚生労働省が定める50項目に及ぶ水質基準のすべてに適合しています。微生物、金属類、有機物などのほとんどの検査項目で基準値の10分の1以下となっており、「安全性」についても折り紙付きです。しかも、値段はペットボトルの1000分の1以下と言われている。

新発田の水道水も、加治川の恵みの一つだとは思いませんか。



寄稿 殿様街道てくてく旅 ⑪

白河から奥羽街道を行く

会津街道を行く私達の旅も、いよいよ白河から江戸までの奥州街道となった。今回の旅は、福島県白河市から栃木県大田原市佐久山本陣跡までの全50km。これを、初日30km、2日目20kmと、かなりのハイペースで歩き通した。「歩く」ということに没頭できた、誠に充実した二日間だった。新しい風景の中を身軽に歩く楽しさ、歩ける喜びを、今まで以上に満喫できた幸せな旅だった。雨だとか冷え込むだとかという天気予報も裏切って、二日間とも穏やかで暖かな秋晴れであった。

歩けばこそ、幾つかの小さな出会いに恵まれる。白河市小峰城の駐車場で、植え込みの樹木の保護のために注意して回っていたおばちゃん。芦野の遊行柳の下で突然現れ、一帯の歴史らしきことをひとしきり高説して去っていった中年のおっさん。遊行柳は、能の演目にもなっていて、能ならば柳の精の翁という処だ。

「田んぼでフリーマーケット」の札の立てられた集落では、数人の女性が道路脇の広場でおでんを作っていた。美味しそうな匂いが、穏やかな秋の午後の陽射しの中に漂う。「よっちゃん家(ち)」「さっちゃん家(ち)」などと書かれた門札が家の前に立ててある集落。また、町はずれの国道の両側の植え込みが、鳥の形に刈り込まれたトピアリー街道など、1kmもないのだが、歩く目にはとても楽しい。(K.K)

(次号へ続く)

イオン イエローレシート キャンペーン

加治川ネット21は、イオンのイエローレシートキャンペーンに参加しています。

これは、イオン各店で毎月11日に発行される黄色のレシートを、応援したい団体の箱に入れると、半年ごとに集計され、レシート金額の1%相当の品が団体に贈られるというものです。

当会では、毎年、この助成を「小学校の環境学習パネル展」の参加記念品代として活用しています。当会の箱が設置してあるのは、イオンモール新発田です。家庭で眠っているイエローレシートがあまりましたら、ご協力をお願いします。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設立 1996年11月。2003年5月法人化

活動目的 21世紀を生きる子どもたちにより環境(自然、伝統、文化)を残し、伝える。

主な活動 水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催

受賞歴 環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか

年会費 法人会員10,000円、個人会員2,000円

編集後記

▼無いと困るものなのに、普段特に気にしないものに、「水」があります。編集会議での何気ない会話から、新発田市の水道水はおいしいと言う話になり、今回は「新発田の宝物」として取り上げました。そういえば、ペットボトルに入った新発田の水道水が、イベントなどで配られることがあります。それだけに自信のある水といえるのでしょう。

飯豊連峰や二王子岳などの山麓から流れ出た水は、市民共通の財産であり、豊かな自然にあふれた郷土とともに、私たちの誇りであると思います。しかし、「この水のおいしさや豊かさを享受できるのは、人間だけの特権なのでしようか。」

ちよつと目を転じると、人々の営みの効率や便利さの向上の結果、湧水が失われ、脆弱な生態系が消滅しようとしている現実もあります。そのような脆い生態系、壊れかけた自然も、私たちの郷土の財産なのです。「豊かさとは何か」、今一度、問い直してみたいと思います。

平成25年度活動方針決まる

加治川ネットの平成25年度総会が2月に開催され、今年度の事業計画画等が承認されました。

当会は、これまで環境保全を図る活動、社会教育の推進を図る活動、文化の振興を図る活動、まちづくりの振興を図る活動を4本の柱として、多岐にわたって活動し、今年、創立17年目に入りました。ありがたいことに、行政や地域教育現場など、いろいろな場面で声がかかるようになってきています。

しかし、近年は限られた人材、予算の中で、その期待に応えきれず、断らざるを得ない場合も出てきています。そこで、今年度も、事業の選択と集中、人材確保を図ることで、より密度の濃い活動を目指します。

恒例事業として定着している春の生き物調査や、加治川で水と親しむ「水辺の大楽校」、手前味噌作り、環境学習パネル展、環境学習講師派遣などは継続事業とし、より工夫を加えながらの実施を目指します。

NPO法人としての責任の中で、他組織等との連携事業、支援もかせません。当会が事業主体とならずとも、持っている知識や技術を他団体の活動の中で生かすことができれば、それも重要な活動の一つであると考えています。

す。今年、そういう活動も積極的に取り組めます。

平成25年度 総会記念講演 テーマは

「新時代のまちづくり戦略」

当会では、毎年定期総会後に会員以外にも呼びかけ、記念講演会を開催しています。今回は新発田地域振興局地域整備部参事の渡辺齊氏を講師に迎えての講演でした。テーマは「新時代のまちづくり戦略」〜越後妻有大地の芸術祭の事例紹介と新発田の可能性。

渡辺氏は、新潟県職員として、地域づくりの企画、事業推進などを手がけられる傍ら、ライフワークで住民主体のまちづくり・地域づくりに関わり、越後



大地の芸術祭作品から

妻有での大地の芸術祭仕掛け人の一人でもあります。

回を重ねるごとに規模が拡大してきた大地の芸術祭も、当初はゼロからの出発で、住民や自治体の理解を得るために話し合いを重ねました。芸術祭の大きな力となったのは次の三つでした。
①地域の人や芸術家をはじめ、多くの人たちがボランティアとして参加していること。
②民間の力で開催したこと。
③事業の成功により、行政の補助金が付くようになったことでした。

地域再生の鍵は、地域の人々が様々な宝に気づき、応援してくれる人たちにつながっていくこととのアドバイスもありました。

新発田のまちづくりの可能性について、合併によって加治川が市内を流れることになり、水の循環を捉えた形が、新しいモデルの可能性があるのでないか。また、川と里との循環、高齢化に伴う助け合いのまちづくり、食やお酒やお菓子の掘り起こし、歩いて楽しいまちづくり等が新しいエンジンとなりうるのではないかとこの提言がありました。加治川は私たちの会の活動フィールドでもあることから、このあたりが今後の活動の何か参考となればと思います。

今年もおいしい味噌が できますように

加治川ネットでは、スローフードの代表格である味噌を、自分の好みの塩でつくる「手前味噌の会」を9年前から開催しています。今年3月23日、聖籠町の二本松公会堂で開催しました。

講師は今年も藤田味噌店の藤田さんにお願いました。会場には開始30分前から、馴染みの顔がどんどん集まってきました。「やあ、久しぶり」などと声を交わしながら、受付を済ませ、材料を受け取ります。材料は「安全、安心食材」にこだわり、国産米を使った糀と県産大豆を使った味噌種です。

リピーターが多かったせいか、材料を受け取った参加者たちは、講師が指

導を開始するのを待たず、早速作業を始めます。初参加の人たちもそれに続けとばかりに、糀と塩、そして大豆を混ぜ合わせます。今年は、66樽分、合計528キログラムの味噌が仕込まれました。味噌は夏を越すことで発酵し、おいしい味噌に変わります。半年後の出来上がりが楽しみです。

味噌は、使う塩の種類で味が変わる（？）、それが手前味噌づくりの楽しみでもあります。そのため、味噌づくりを始めて10年になる当会会員の一人は、毎年いろいろな天然塩を使っています。しかし、どの塩が一番おいしい味噌となったかについては、未だに分からずじまいだそうです。誰でもできる味噌づくり、されど味噌づくり。奥が深いです。



手前味噌の仕込みを喜ぶ参加者たち



加治川の桜並木に贈呈 今春中学卒業生に贈呈

かつて東洋一の桜並木とうたわれた加治川の桜。河川改修のため、それらの桜は伐採され、一旦はその姿を消しましたが、再生に向け、昭和59年から行政や市民団体が加治川堤や治水記念公園に桜を植樹してきました。この桜堤の絵葉書ができました。

写真は加治川の近くで育った安達勝典さん（愛知県在住）が、趣味で撮りためたもの。いつかこの地を離れることがあっても母なる川ふるさとの川加治川をいつまでも忘れないようにとの思いを込め、自費で絵葉書を作成しました。

当会と、加治川を愛する会、加治川の里づくりの会の三団体がこの思いに応えようと、今年3月、新発田市と聖籠町の中学3年生約1100人に、この絵葉書を卒業記念として贈りました。この絵葉書を通し、加治川の桜の保護に関心をもつ若い人たちが増えてくれればと思います。

三団体は、中学生に贈った絵葉書の写真を一部組み替えて、新たな絵葉書セットを作成しました。世界一の桜並木創生資金の一部にする予定です。
当会では、さまざまなイベントを通し、桜堤の保全、育成のための資金カンパを呼び掛けることにしています。500円以上の寄付をしてくださった方には、この絵葉書セットをお礼に差し上げます。イベント等で加治川ネットの呼びかけなどの姿を見かけましたら、ご協力をお願いします。
絵葉書は当会の事務局まちかフェリックス内（新発田市諏訪町1）にも置いてあります。

方言 その10

ぎごわな話

母 「お父ちゃん、トイレの戸が開かねえんだども。」
父 「どれ、なんかつかえてのんか? (ギシギシ)」
母 「直せるげ?」
父 「せば、納戸から道具箱もってこいや。」
母 「その納戸も開かねえんだども。」
父 「あちこちぎごわになってきたな。」
母 「あらっ、お父ちゃんもだよ! 気つけねえや。」

※ぎごわ

物事が滑らかでない様子、ガタビシと動きにくいさま。

環境豆知識 Vol.15

PM2.5と防護マスク

今年の年明けから中国の汚染大気浮遊物質PM2.5の飛来が問題視されています。PM2.5は特定の物質を示すものではなく、経済活動の過程で主に車や工場の化石燃料の煙から発生する様々な微細な浮遊物質の総称です。

その細かさは1000分の2.5ミリで、喉や鼻の粘膜を通過し、肺の深部まで達して呼吸器官などへの健康被害を起こすとされています。これを防ぐマスクとして、N95が現在薬店などで市販されています。これは米国の労働安全衛生研究所の規格で、Nは耐油性が無いという意味で1000分の0.1~0.3ミリの微粒子を95%補足する性能があるというマスクです。他に性能に合わせてN99やN100があります。

しかしこれとて万能品でなく、口元に隙間なく密着させないとその効果は発揮できません。しかし、汚染物質の飛来に合わせて、環境不安からこのマスクの需要が増大しています。